

www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目1-16 tel. 088-822-5231
発行●2019年1月25日 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦

受賞報告	町田 彩佳 / 中山雄二	3	
	熱烈応援	11名	4
南海トラフ地震に備える	工藤淑恵	6	
	留学研修制度	林哲平	8
	留学研修制度	Amir Adham Ahmad	9
	臨床栄養部研修報告		12

目次

初開催！

高知医療センター・近森病院合同

薬学生対象合同オープンホスピタル2018開催

薬剤部 部長 筒井 由佳



12月26日に初の試みとして、高知医療センターと合同で薬学生を対象とした、オープンホスピタルを開催いたしました。

午前が高知医療センター、午後は当院の見学と、二つの三次救急病院を一日で見学するスケジュールです。病院での薬剤師業務の魅力を、多くの薬学生に知ってもらうことを目的としたこの取り組みに、関西、中四国地方の五つの大学から11名の薬学生が参加してくれました。

当院では薬剤部内、一般病棟の他、ER、集中病棟、外来化学療法室やヘリポートなどの病院施設の見学、近森病院における薬剤師業務の紹介、ミニカンファレンスによる卒後教育の体験、3年目薬剤師との意見交換会を実施しました。

これらを通して、急性期病院でチーム医療の一員として専門性を活かし、

生き生きと働く薬剤師の姿を肌で感じてもらうことができたと思っています。オープンホスピタル終了後のアンケートでも薬学生の満足度は高く、また「二つの病院を一日で見学出来て良かった」、「複数の病院の施設、機能、業務を比較して見ることができ、学ぶことが多かった」などの意見をいただき、合同での開催に対する評価も高いと感じています。

高知県では薬剤師不足が続いており、県全体で取り組むべき課題といえます。薬学部がない高知県での薬剤師確保のためには県外の薬学系大学に進学した学生のUターン就職を促進することがカギとなります。

今回のこの取り組みが

高知での就職を少しでも後押しできることを願っています。

つつい ゆか



Future!

▲薬剤部ポスターつくりました



職員の皆さんの協力を得て

近森病院医療安全・感染担当 副看護部長
感染管理認定看護師 近森 幹子

感染管理認定看護師は、施設にあった感染管理体制をつくり、患者さんや職員を感染から守ることが役割です。私の日常は、専従の感染管理担当者や ICT（感染対策チーム）とともに、院内の手指衛生や感染対策の実践状況の確認や感染対策に関する相談対応などを行っています。

感染対策は、安全に医療・看護を

提供するために重要で、ICT だけでなく、職員一人ひとりが知識や技術を身につけ、実践できるようになることが不可欠です。そのために、日々、相談対応や声掛けを行い、スタッフの支援をしています。最近では、院内をラウンドしても、各部署で感染対策を意識した整理整頓や対応を心がけていると感じます。

感染管理認定看護師は、直接患者さんにかかわることは少なく、職員の方々に協力していただく対応がほとんどです。これからも患者さんに安心、安全に医療・看護が提供できるよう皆様のご協力を得ながら、感



▼病棟の感染対策勉強会に参加

染対策に取り組んでいきたいと思えます。

2018 年度も、「医療安全・感染対策作品コンテスト」を実施しました。作品応募、職員投票にご協力ありがとうございました。この取り組みは、医療安全や感染対策への意識の向上や感染対策の実践につなげるために行っています。〔表彰式▶10 頁へ〕

ちかもり みきこ

2月の歳時記

梅

近森病院北館 4 階病棟
看護師 高石 裕子



2 月を代表する花は「梅」です。花言葉は「不屈の精神」「気品」などがあります。

日本には遣唐使を介して、中国から伝わり、当時は桜の花より人気があり「万葉集」に多く詠まれていました。現代では、お花見といえば「桜」ですが、梅の花も、色・種類もたくさんあり楽しめる花でもあるので、早春を感じに出かけてみてはいかがですか？

たかいし ひろこ



● 近森看護学校通信 32 ●

看護の心の基礎づくり

近森病院附属看護学校 専任教員 黒岩 悦子

10 月下旬、1 年生が初めて病院に行った実習で、患者さんと会話が続かないと悩んでいた学生がいました。その学生に対し指導者さんは、時間をかけ、声のかけ方や関わり方の手本を示して下さいました。

学生の緊張は徐々に和らぎ、実習最終日、患者さんから「上等！手際も良くなった」とほめていただき、学生は今にも泣き出しそうな、ほん

とうに嬉しそうな笑顔をしていました。

実習は授業で学んだ知識や理論、技術を実践する場です。これから先の実習では求められるレベルも上がってきます。実習での学びが看護を好きになる気持ちの根っこになるようこれからも学生と共に学んでいきたいと思えます。

くろいわ えつこ

受賞報告

第 60 回日本呼吸器学会中国・四国地方会
初期研修医セッション優秀演題賞第 119 回日本内科学会四国地方会
研修医奨励賞明るく抜ける
キラキラした菌体を見つけたら…

初期研修医 町田 彩佳

第 60 回日本呼吸器学会中国・四国地方会において「喀痰グラム染色が診断の契機となった肺結核症の一例」という演題で初期研修医セッション優秀演題賞をいただきました。

昔の疾患と思われがちな結核ですが、近森病院でも結核と診断される患者さんは少なくありません。簡便にできる喀痰グラム染色での特徴的なキラキラした菌体(ghostmycobacteria)が結核の診断の契機となり、感染予防の点において有用である事を再認識できる報告をさせて頂けたと思います。

まちだ あやか

主体的に
取り組むことができました

初期研修医 中山 雄二

同月の「ひろっぱ」に二度も載ることができて光栄です。12月初旬、松山で開かれた学会で奨励賞をいただきました。症例報告は、「延髄外側の脳梗塞(ワレンベルグ症候群)で非典型症状を呈した方」です。

ご指導くださった脳神経内科の先生方にはたいへんお世話になりました。適切にアドバイスをいただき、主体的に取り組むことができました。

実は、受賞発表時には自分は会場を離れており、代わりに研修医 K 本先生に壇上で賞状を受け取っていただきました。たいへんご迷惑おかけいたしました。

なかやま ゆうじ

毎月
25 日

病院周辺の清掃活動開始

管理部の有志が中心となって、清掃活動をスタートしました。最近は様々な企業が地域社会の環境美化に努めています。このような活動は、日々の業務姿勢に反映され、安全で安心な仕事にも繋がると考えます。



また広い視点で考えれば、清掃活動を通じて住民の皆さんや近隣企業の方々とのコミュニケーション活性化、交流を図ることが出来、スタッフ自身のモチベーションアップにも繋がっていくのではないのでしょうか。

「毎月 25 日は、清掃活動の日」。有志の参加をお待ちしています。



▲第 1 回は 12 月 25 日(火) 7:30 ~ 8:00 に行いました

「なんでもフリーコーナー」
看護学生の「ハレとケ」

近森病院附属看護学校

2年 別役 朱花
(べっちゃんく しゅか)

▼成人式。右側



▼左側



乞！熱烈応援

これからも守破離の精神で

みんなで笑顔に！

初心を忘れず新たな環境で



臨床栄養部 部長代理
栄養サポートセンター
センター長 宮島 功

この度、臨床栄養部 部長代理という大役をおおせつかり、責任の大きさを感じております。これまで築き上げてきた「近森病院の栄養サポート」の文化を守りつつ、これまで以上に患者さんや御家族のサポートができるよう、日々変化（成長）をし続ける臨床栄養部にして参りたいと思います。御指導の程宜しくお願ひ申し上げます。 みやじま いさお



高知ハビリテーリングセンター
就労・相談部
部長 蒲原 弥華

新たな体制で臨むこの機に、部長という責任の重い役割をいただきまして気の引き締まる思いでいっぱいです。利用者、職員と一緒に泣き、笑い、そして前進していけるような、そんな施設を目指して、高知ハビリテーリングセンターをみんなで作っていけるよう取り組んでまいります。どうぞ宜しくお願ひ致します。

かもはら みか



高知ハビリテーリングセンター
生活・訓練部
部長（出向）島崎 義広

近森会に就職して14年の間にたくさんの方に支えられ、急性期・回復期・生活期と経験させて頂きました。今回このような辞令のお話を頂き、不安に思いながらも新たな環境で尽力して参りたいと思います。微力ではありますが、高知ハビリテーリングセンターの支えになれるよう、日々精進していきたいと思ひます。

しまさき よしひろ

前を向いて

謙虚に笑顔で

一歩ずつ



臨床栄養部
副部長
内山 里美

時には立ち止まりよく考えることも大事だと思っています。しかし後ろ向きではなく常に前を向いて、患者さんやスタッフにとって本当に良いこと・大事なことは何か一緒に考え、積極的にチャレンジできればと思ひます。何よりうちの管理栄養士はそれができると信じています。これからも共々よろしくお願ひ致します。 うちやま さとみ



高知ハビリテーリングセンター
就労・相談部 アルベアテ
就労継続支援 B 型
サービス管理責任者 福西 利孝

アルベアテの就労継続支援 B 型へ異動になり、ハビリで一番の大所帯を任せましたが、不安と重圧とで晩酌の量が多くなっています。ご利用者へのサービスを充実し、日々を楽しく過ごせる事が出来ますよう全力で頑張りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。 ふくにし としたか



高知ハビリテーリングセンター
生活・訓練部 生活介護
サービス管理責任者 山崎 志保

高知ハビリテーリングセンターに入職して4年、先輩方の経験に助けられ、若い頑張り力に力づけられ、やってきました。自分の能力で役割が担っていけるのか、不安が拭いきれないのが正直な気持ちですが、今まで同様、仲間感謝しながら一歩ずつ進むことで自分が成長し、利用者の満足に繋がると信じて日々努めていきたいと思ひます。 やまさき しほ

乞！熱烈応援

好きこそ物の上手なれ



高知ハビリテーリングセンター
生活・訓練部 自立訓練
主任 安岡 彩

好きなことは能力が伸びると信じています。最近再開した弓道も、山に入ってチェーンソーを使い木を伐ることも、好きだからこそ上達していると思っています。ハビリでの仕事は大変ですが、いろんな才能を持った楽しいスタッフと共に、いろんなことを考え作り上げていくことは好きです。きっともっと伸びていくと信じています。 やすおか あや

可能性を信じ伴走します



高知ハビリテーリングセンター
生活・訓練部 自立訓練
サービス管理責任者 藤本 佐和子
機能訓練と生活訓練を利用される利用者の皆さんの得たい成果、目的はさまざまです。コーチング技能を使い、共に考え、皆さんの目指すそれぞれのゴールに向かって計画立案と見直しを行い、自己実現に向けて支援します。利用者の皆さんの可能性を信じ、先輩方からの学びを胸に、精進します。どうぞよろしくお願いたします。 ふじもと さわこ

大家族の一員となり



高知ハビリテーリングセンター
児童・地域部 はるのハビリホーム
サービス管理責任者 尾崎 弘章

入職して8年間は就労の現場で職務を行って参りましたが、12月よりグループホームでの勤務となりました。日中活動と生活場面では利用者さんの表情も違い、グループホームがひとつの大家族のように思えます。これからは、私も大家族の一員として、家族全員から信頼されるサービス管理責任者を目指して精進して参ります。 おさき ひろあき

チームで笑顔を支える存在に



高知ハビリテーリングセンター
児童・地域部 キュール
児童発達支援管理責任者
加藤 万奈

入職3年目と未熟ながら、精一杯頑張りたいという気持ちの反面、責任の重大さを痛感しています。しかし主任を始めとする先輩方や仲間を支えられ今の自分があります。感謝の気持ちを忘れず、子ども達の笑顔を支える存在になれるよう努めてまいります。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。 かとう まな

出来ることから



近森リハビリテーション病院
6階病棟西
主任 川村 しのぶ

自分に務まるのか正直不安もありましたが、子供たちからも「頑張ってみたら」と後押しもあり、自分なりに出来ることから頑張ってみようと今は思っています。リハ病院での経験は長いですが、まだまだ未熟なところもあると思うのでみんなと一緒に成長できたらいいなと思っています。よろしくお願いたします。

かわむら しのぶ

第21回
公開県民講座

日時：4月6日（土）
14:00～16:00

会場：かるぽーと大ホール
テーマ：「救急医療（仮）」

 救急科、循環器内科、
脳神経外科、整形外科
ほか、近森の救急医療
の取組をご紹介します！

2月献血のお知らせ

日時：2月27日（水）
12:30～17:30
会場：近森病院本館ロビー
（水槽前）

*400mL 限定です

*前回献血より、男性 12 週間以上、
女性 16 週間以上経過が必要です。

*前回 9 月の献血でご協力頂いた女性
の方も、年間献血件数が今回を含め
て 2 回以内であれば献血可能です。

地域災害支援ナースを増やして 南海トラフ地震に備える



近森病院看護部
副看護部長 工藤 淑恵



▲災害支援ナース。後列左端筆者

日本看護協会では、大規模災害発生時に被災地支援を行う「災害支援ナース」活動を行っており、全国で9,413名（平成30年3月）が登録しています。その「災害支援ナース」とは別に高知県看護協会では、南海トラフ地震などで地域が孤立し支援が遅れることを想定し、「県下で災害が発生し所属機関に着任できない場合に、最寄の救護病院、救護所等で支援を行う」ナースとして高知県独自の「地域災害支援ナース」を育成

しています。私たちはどこで災害に遭うかその時でないともわかりません。もし津波が起きて近森病院にたどり着けないところにいたら…とりあえず最寄りの病院や救護所でナースとして活動しようという取り組みです。

近森病院看護部災害対策委員会では、災害看護の知識や技術向上のため平成30年度の目標として「地域災害支援ナース」30名登録に向けて取り組んでいます。災害看護について看護協会でも育成研修を受け、登録後も継続研修で学びます。平成30年度は33名が研修を受講しました。

院内でもミドリの「登録証」を胸に付けて「地域災害支援ナース」の普及活動をしています。「そのミドリの名札はなんですか？」と聞かれると「これはね～災害支援ナースといって…今度一緒に研修に行きましょう。」と勧誘しています。

近森病院は災害拠点病院です。誰もがDMATにはなれませんが、「地域災害支援ナース」として災害時活動することができます。災害に対する意識を高めて、ともに南海トラフ地震に備えましょう！

くどう よしえ

リレー エッセイ

冬がはじまると

冬は当然寒いので苦手なのですが、少しホッとします。何故かという、高校生の息子が野球部に所属しているのですが、部活動での試合が12～2月は禁止。故に早起き、試合の送迎などに追われることがなくなるからです。



近森オールソリハビリテーション病院
医事課（パート） 筒井 純子



彼が「野球がやりたい！」と言い出し入部して早9年。小学3年生から、行事や試合の送迎、遠征での超早起きに、週末はお弁当作りが始まりました。

ユニフォームは破れて穴が開き、成長期にはどんどん変わるサイズに涙。真夏の日差しを浴び続け、顔に大量のシミも出来ました。

それこそ彼は親同様、幼い頃は運動が苦手な子でした。しかし入部後は運動、外遊び大好き子になり、家にいることが少ないアウトドア人間へ。引っ込み思案だった彼は、たくさんの方々と野球仲間とに囲まれ、心身ともに逞しくなってきました。私自身も保護者の方と親睦を深め、試合ではスタンドから声を上げるよ

うに。試合に勝てば親同士抱き合っ
て喜び、負ければ吠え、面倒だと思っ
ていたことも、今思えば懐かしいこ
とばかりの日々が続いています。

来年は高校野球最後の年です。平成最後と最初の年をまたいだこの半年間、私なりに親としてのサポートをしつつ高校野球を楽しみたいと考えています。そして夏が来れば本当に終わりの時が来るので、スタミナと感動の涙を冬のうちにしておこうと思います。

結局、自分は冬将軍がくると毎年少し物足りないのかも知れません。

つつい じゅんこ

卒業論文が選ばれました

診療支援部施設用度課
主任（病院経営管理士）

宮下 公将



「病院経営管理士」とは日本病院会が主催する2年間の座学中心の研修で、病院運営に関するさまざまなこと（49講座）を学びました。この卒業論文が受講生の中から選ばれたものです。

現在、私は各種の購買や設備整備を担当しており、それに関連して高額機器の費用対効果についての論文

を書きました。今後の業務に役立てたいと思いますが、お金の収支だけを見るのではなく、各部署のみなさんの意見を聞き、患者さんの診療と職場環境の質アップにつながる投資実現を念頭に従事したく思います。

今後とも皆さまのご指導をよろしくお願いいたします。

みやした まさゆき

私の趣味

ツーリングで癒される



近森リハビリテーション病院
作業療法士 森岡 萌



私の趣味はツーリングです。車でのドライブも好きですが、ツーリングは、車の窓などの遮る物がなく、山や海などの風や匂いがよく分かり、視点の高さも違うため、景色や空の見え方が車とはまた違って、より綺麗に感じ、気持ちがいいです。

最初は一人でしたが、今では職場の人や友人などと何人かでツーリングに行くことも増えました。行き先を決め、「じゃあ途中で面白い所あるき、ここも行こう。この道の駅のこれが美味しいき、寄って行こう」と話すのはとてもワクワクします。また、同じ景色を見たり、休憩している間に食べる美味しい物を「おい

しいね」と言いながら食べ、みんなで同じ時間や体験を共有するのは、本当に楽しいです。

一人で1~2時間でさっと気軽に出かけたり、友達と朝早くから夜遅くまで遠方に出かけたり、楽しみ方を変えることもできます。

バイクに乗り始めてから、景色や空、自然の美しさに気づき、また、高知県は景色も空気もよく、美味しい物も多く、改めていい場所だと思えることができました。大歩危、柏島、四国カルストなど他にも沢山行きましたが、これから先も、バイクに乗って、色んな所に行ってみたいと思っています。

もりおか めぐみ

ハッスル研修医

思い込まない



初期研修医 中山 雄二

こんにちは！研修医1年目の中山雄二と申します。

私は土佐高校を卒業後（86回生）、1年浪人して慶應義塾大学へ入学・卒業しました。

医学部5、6年生の時、いろんな病院の見学をするなかで、地元である高知の医療について興味を持ち、県内の病院のなかでも研修内容が魅力的だった近森病院への研修を希望したのがきっかけになります。

現在は目の前の研修（など）が充実しすぎて、高知の医療について時間をかけて思いをはせることはできておりません（笑）。

研修が始まって先生方から学んだことの一つは、疑うこと、思い込まないことです。〇〇疑いなのか、〇〇と確定診断されているのか、そこをしっかりと分けないとドツボにはまるが多々ありました。

また、これはまだまだできていないところなのですが、病態を考える力を養っていきたくと思っています。画像検査をして、「はい、脳梗塞！」「肺炎！」、というのはなく、なかなか完璧に行くことは難しいですが、詳細な病歴聴取と身体診察を心がけていきたいです。

なかやま ゆうじ

高知から東京へ

独立行政法人国立病院機構 東京医療センター

整形外科 林 哲平



近森病院は日本で最初のAO Trauma Fellowship Unitであり、その認定施設というのは全国で二つしかありません。東京では学べない知識を得るために、はるばる高知まで3カ月間の研修に来ました。二つ返事で研修を許可して下さった衣笠先生には深く感謝しております。

実際研修に来てみると、英語でのカンファレンス、圧倒的な知識量、手術方法の違いなど、普段と違うため戸惑うことはありましたが、温かい先生方のサポートもあって、すぐ

に慣れることができました。毎年海外も含めたくさんの研修生が来るような環境だから生まれる、独特の雰囲気だと思います。また、コメディカルの皆さんにも病棟、外来、手術室で優しく教えてくださり、支えていただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。各々が責任を持ち、率先して動く姿は、私が勤めている東京の病院とは違い、チーム医療というものの本質を体感できたと思っております。

手術としては、非常に高いゴール

を目標とした治療を行っており、たくさんの知識、普段うまくいってなかった症例の解決策などを学ぶことができました。教育してくれる指導医がいて、その中で手術をできるのは本当にいい環境だと思います。

東京に帰っても近森イズムを忘れず、日々の診療に活かし、少しでも良い成績で、少しでも多くの人を助けたいと思います。もう少しだけお世話になりますが、よろしく願います。

はやし てっぺい

出張報告

2018年11月30～12月2日

23rd Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology

近森病院呼吸器内科・感染症内科科長 中岡 大士



昨年、アジア太平洋呼吸器病学会に参加してきました。開催地は台北市(台湾)で、初めての訪問でしたが、アジアの香り漂い、地下鉄メインに移動し、なんとなく表示や看板が理解でき、治安も悪くないことなどが

ら、異国らしさを感じず楽に過ごせました。

今回、気道発症型の再発性多発軟骨炎の症例2例をポスターにまとめました。比較的にまれな自己免疫性疾患ですが、①喘息様症状を呈するため喘息と誤診される、②気管切開の閉鎖後に発症した、という2点をポイントとして発表しました。2点目については偶然の可能性がありますが、会場では同様の経過をたどる患者さんに悩んでいる医師から声をかけていただき、症例報告の力を改めて感じました。

近年、呼吸器病領域で激動の変化が起こっているのは、肺癌の治

療です。従来の殺細胞性抗がん剤に加え、多数の発癌ドライバー遺伝子に対する分子標的薬が承認され、さらに免疫チェックポイント阻害薬の登場により、肺癌の治療指針は、毎年大きく変化し複雑化しています。治療の選択肢は増えますが、新しい治療薬は万能ではないうえに非常に高価で、特定の条件を満たす患者さんにもみ適応があります。

日本の肺癌診療は欧米に引けをとらず、アジア太平洋圏をリードする立場にあることを国際学会参加を通して認識できます。当院でもこれらの治療を必要とする患者さんが増えており、今後も世界スタンダードの肺癌治療を提供できるよう邁進したいと思っております。

なかおか ひろし



マレーシアから研修に来ました！

Amir Adham Ahmad



今月（2018年12月）、私は近森病院の衣笠部長と彼のチームで研修する機会をいただきました。私はAOトラウマフェロシッププログラムのおかげでこちらへ研修に来ることが出来ました。

このプログラムは、外科医のため毎年約250もの研修施設にオファース、外傷に関心を持つ整形外科医のため、さらなるAO技術の経験を積む場を提供しています。

こちらでは、毎朝8時15分のモーニングトラウマミーティングから日常業務を開始しています。モーニングミーティングには整形外科のすべてのメンバーが参加します。

そこで議論するのは、その日に予定されている手術前症例や前日の術後症例、24時間前からの入院、紹介患者他、多くの手術を待つ患者さんの症例についてです。

このミーティングは、さまざまな治療方針を議論し、術後の画像を見比べ、研修生を教育する上で優れたプラットフォーム（方式）です。すべて英語で議論されるため、私が参

加することになんの問題もありませんでした。

ミーティング後、私はスクラブ（手洗い）して手術の助手に入ることを許可されました。

AOの原則は世界共通であり、こちらの外科医が実施している手術の原則や技術に関しては、マレーシアで我々が行っているものと類似しています。当然のことながら、固定方法の選択は、外科医の好みによりさまざまです。

こちらで使用されている装置やインプラントなど、例えば、大腿骨頸部骨折の固定に使うハンソンピンはフックによって骨折部が回転しないように安定させることができますが、そのようなマレーシアでは利用していない内固定具を知ることがとても興味深いことでした。

私にとって記憶に残る手術の一つは、衣笠部長による両側性の内反型変形性膝関節症患者の手術です。彼は両側の脛骨顆外反骨切り術（TCVO）を行いました。これは外側の不安定性を有する進行した内側型膝変形性

関節症（OA）のためのOpen wedge高位脛骨骨切り術の一種です。

彼がopen wedge法で楔状切除をした後、術中に、安定した膝を見た時は大変驚きました。これは、高位脛骨骨切除（HTO）より優れた技術とされています。なぜなら、膝関節の3D補正（立体的に修正）できるためです。

衣笠部長と整形外科の皆さんが仕事でもそして仕事が終わってからも私に示してくれた親切に対し、この場をお借りして感謝申し上げます。また来院初日からとても歓迎して下さいました近森病院の皆さんにも感謝致します。

皆さんが私に示してくれた優しさに触れ、終身大事にするであろう友情を得ることが出来たと確信しています。

高知を離れるのが本当に寂しいですが、また近いうちにみなさんに会いに必ず戻ってきたいと思います。

ありがとうございました。

アミール・アダム・アーマド
（原文「英語」を翻訳しています）

お弁当拝見 68 午後からの活力



高知ハビリテーリングセンター
生活・訓練部 自立訓練
作業療法士 橋本 竜太



コンビニ弁当にも飽きて、不経済なため「卵焼きとウインナーでいいから弁当を作って」と、この歳で母に頼むのも気が引けましたが、母曰く「作るくらいならできるだけバランスを考えて…」とのこと。

作り手の強みで、最近は弁当箱にこれでもかというほど野菜を詰め込まれています。最近の弁当箱は保温性の高いものも多く、お昼どきでも美味しくご飯が食べられます。

しっかりと栄養を取り、昼からも元気にがんばります！

はしもと りゅうた

ニューフェイス

- ①所属②出身地③最終出身校
④自己アピールなど

医療安全・感染対策作品コンテスト表彰式

医療安全は「患者確認」、感染対策は「手指衛生」
をテーマに職員から川柳・標語を募りました。



● おめでとう ●

● 人の動き 敬称略 ●

職員対象 第89回 チカモリ・シネマクラブ

2018年12月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	17,846人
新入院患者数	962人
退院患者数	1,042人
近森病院（急性期）	
平均在院日数	14.01日
地域医療支援病院紹介率	79.80%
地域医療支援病院逆紹介率	301.86%
救急車搬入件数	574件
うち入院件数	275件
手術件数	471件
うち手術室実施	307件
うち全身麻酔件数	172件

● 2018年12月 県外出張件数 ●
件数47件 延べ人数86名

● 編集室通信 ●

母の日にもらった花を飾ることがきっかけで「部屋に花を飾る」ということが大事な習慣になっています。花を選び、瓶に飾り、毎日お水を替える…そんな小さな余裕が、日々の暮らしを少し特別なものにしてくれます。いつものインテリアが色あせて見えたり、毎日が慌ただしく過ぎ去ってしまう気がしたり、そんな時こそ、暮らしに花を加えてみませんか。

由似

自分だから出来ることを黙々と

つぶれた三度のチャンス

看護学生の時代から近森病院ひとすじで38年間、准看護師として働いてきた。周りの准看護師就職組がこぞって正看護師資格取得の学校に通い始めた時期には、「同期の皆さんと同じように、わたしも当然、上の学校に行くつもりでした…」。

が、結局、進学は断念した。

チャンスは一度ならず三度あった。が、プライベートの事情も重なって三度目のチャンスがつぶれたときには、「まあこれが自分にできる精いっぱい。運命やろう…」と准看護師としての職業人生を受け入れた。受け入れることに「決めた」。

そこに至る葛藤についてはここでは省くが、少なくとも職場では裏方としての気概を持ち、「自分だからできることもある」と、自身に言い聞かせ続けてきたようだ。

手術室で37年

泌尿器科外来に1年間異動した以外は、ずっと手術室勤務が続いている。たった1年の在籍だったのに、泌尿器科外来スタッフからは、「泌尿器科の分からないことは野本さんへ」と言われる。「真面目で、どんな仕事もいやな顔をせず行なえる人」という手術室のスタッフ評もある。体力面ではきついことも多かったろうが、「月日の流れはありがたいものです」と、野本さんはサラッとひとこと。

修学旅行気分！ 近森病院女子寮時代

そもそも、近森病院への就職は高校時代の先生の勧めがきっかけで、近森病院の女子寮に引っ越し、准看護師養成所に通う生活から始まった。

田舎からオマチに出てきて、二人で一部屋の寮生活。門限はたしか夜9時、その他決まり事があっても、

まるで「修学旅行が続いているみたい(笑)で、楽しかった」。

そして、「もう時効でしょうけど!」と笑う「代返」は、忘れられないエピソードのひとつ。寮の門さえ入っていたら、たとえ門限を過ぎて仲良しの友だちの部屋に行っても、なんとかなった。在宅を確かめる部屋の外からの寮母さんの声がけに「同室者の代わりの返事」で対応できたことだった。

分かったうえでの寮母さんのお目こぼしだったのかも知れないが、寮母さんの「実の母を思わせる温かみ」は、野本さんだけでなく当時の寮生にとって、大きな励ましになったに違いない。

皆で高知城公園にピクニックにも行ったし、女子寮2階にあった「近森病院保育室」の幼児たちと大浴場で一緒にピチャピチャ水遊びしたり…。楽しい思い出話が次々、次々。

手術室との縁は、学生の当時から

看護学生の当時の勤務形態は、全部署を3カ月交替で経験することになっていた。2年次に進級したとき、当然まだ全部署を回り終えてはいなかったが、手術室への「出戻り勤務」を言い渡され、しかも1年次の後輩も連れての異動になった。

その番狂わせを野本さんは不思議に思ったそうだが、折々に振り返っては、当時の婦長が自分の面倒見の良さを見込んでくれたのかも知れないと、励みともしたようだ。

慣れないうちは、さらに緊張を強いられるであろう手術室での仕事に、



▲「これから孫たちにお年玉です(笑)」



▲職場では「ほぼほぼの仕事着です!」

忍耐強く取り組む姿勢を当時の婦長に期待される部分もあったのだろう。

野本さんは、「手術器具の片付けにしろ、オペ衣の繕いにしろ、患者さんのケアには直接繋がらなくても、とにかく誰かがやらないといけな仕事こそ自分ができると思ってやってきました」と語る。

准看護師という立場上、携われる仕事内容に制限はかかるが、「こんな自分でもずっと仕事を続けられて、おかげで子どもも大きくなりました。感謝以外はありません」と感慨深げ。

高知市内に一軒家を構え、息子一家と同居してきた。「できる者ができる家事を担当する」方式でずっと仲良くやってきた。

武勇伝、山の奥へ奥へ

小さい頃迷子になったことがある。近所のお兄ちゃんお姉ちゃんたちについて、山の奥へ奥へと探検に行き、捜索隊まで出動する大騒ぎになった。黙々と前へ前への我慢強さはDNAに組み込まれていたのだろうか。

「我慢」という単語が野本さんから何度か出てきた。

それでも、いつも自分には仕事があって、仕事に救われてきたとつくづく思うのだそうだ。「結局、仕事がいちばん好きなんでしょうね(笑)」。なんと重いのある言葉である。

臨床栄養部長期研修（3カ月、1年） 受け入れについてご紹介

3カ月研修は、全国の医療機関から管理栄養士が来られて、栄養管理に必要な医療知識および患者さんの見方、栄養管理方法を学びます。研修後は自施設に戻られ、活躍されています。

1年間の長期研修生は、大学などを卒業後に臨床で活躍する管理栄養士を目指して学びに来る方が多いですが、過去には研修のために仕事を辞して来られる方もおられました。



▲詳しくはこちらへ

研修生たちの声



▲NSTカンファレンスに参加する研修生
▶【研修期間3カ月】右端 武山みほ
【研修期間1年】左から山田海聖、伏見真美、渡辺碧衣、戸次優衣



3カ月研修生より

【石巻赤十字病院管理栄養士

武山みほ】

3カ月間の研修で多くのことを学ばせていただきました。自施設での栄養管理に生かしていけるように頑張ります。

1年間研修生より

【山田海聖、伏見真美、

渡辺碧衣、戸次優衣】

およそ2カ月間のローテーションで希望の病棟の先輩管理栄養士に付き、研修を受けています。ベッドサイドにて、患者さんの食生活の聞き

取り、身体計測を実施し、腸音聴取などの臨床所見から病態判断を行い、栄養管理を計画し、電子カルテへの記載、モニタリング、栄養指導などを学んでいます。

実際の臨床現場では、大学で学んだことだけでは通用せず、理事長先生のカンファレンスを通して血液生化学検査値や画像所見の見方、病態を学び、それらを用いて少しずつ患者さんを診ることが出来るようになりました。

研修を通して、食事摂取量が少ない患者さんに直接お話を伺い、食事内容を調整するなど、病名で判断するのではなく、患者さんを診て、一

人ひとりに合わせた栄養管理を行うことができるようになりました。

栄養指導では、患者さんの生活に合った食事内容や摂り方を、患者さんの気持ちになって一緒に考えられるようになりました。また、栄養管理は管理栄養士だけで考えるのではなく、多職種の方々から教えて頂く事も多いと感じました。

この研修を通じて、管理栄養士として栄養の面から患者さんに何ができるのか考える必要性を改めて実感しました。今後も、栄養の面から治療の手助けができるよう、日々知識を増やし、病棟で活躍できる管理栄養士になりたいと思います。



第2回
近森会グループ 学術集会

日時 8月17日(土)午後

■演題募集

2月18日(月)～4月19日(金)

■テーマ

地域において患者さんに寄りそう
医療サービスを提供する

事務局 人材育成委員会

近森会グループ雑誌 Vol.1

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

CHIKAMORI
HEALTH CARE GROUP

論文集完成のお知らせ

2018年2月学会開催時の優秀演題などをまとめた論文集「近森会グループ雑誌 Vol.1」が完成しました。

各部門に一部ずつお配りしていますので、ぜひご覧ください。

※配布は職員対象です。